

妹背牛温泉の潜在能力を解明する

温泉学者、医学博士 松田忠徳

～第8回“予防医学”としての有効性を示唆する結果を得る(2)～

◎飲泉モニター群：「正常」と「ボーダーライン」が、55.3%から86.7%へ大幅に増加!!

3か月もの長期間にわたって、飲泉の実証実験を行った事例は非常に珍しいことでしょう。

改めて前回の【表1】を見てください。「飲泉モニター」の湯治前の活性酸素代謝物量から、「酸化ストレス度」を総合評価すると、15名中3名(全体の20.0%)が2番目に悪い「強度の酸化ストレス度(401～500)」に分類されていました。また「中程度の酸化ストレス度(341～400)」に1名(6.7%)、「軽度の酸化ストレス度(321～340)」に3名(20.0%)がいました。

一方で、健康的な「正常」が6名と全体の40.0%を占めていました。「ボーダーライン(301～320)」は2名(13.3%)。つまり53.3%が健康的なモニターで占められていたことになります。

3か月後の結果は、「正常」が40.0%から73.4%と、飛躍的な増加を見ました。「ボーダーライン」を加えると、健康的なモニターが53.3%から86.7%へ大幅に増加したのです。

この数字は私共の見込みを超える好結果でした。ドイツでは「温泉といえば飲泉」を指すほど飲泉が盛んですが、わが国ではほとんど普及していません。それだけに今回の顕著な効果に正直驚きを禁じ得ません。3か月の飲泉で、“老化”や“万病の元”とも言われる活性酸素が如何に減少したかがよく分かりました。

「飲泉モニター」では1名を除いて、14名全員の活性酸素が減少しました。減少しなかった1名も、開始前も終了後も「正常」域の範囲内にあり、全く問題ありません。

では「飲泉モニター」に対して、「入浴モニター」の結果はどうだったのでしょうか？

◎「たかが温泉、されど温泉」の「ペペル」の“温泉力”

次のデータは「週1回」と「週2回」、3か月間「ペペル」に通った通い湯治モニターの結果です。

2) 週1回通い湯治モニター

湯治前が 322 ± 52 CARR U で湯治後が 259 ± 36 CARR U と有意に減少 ($p < 0.01$) した。

3) 週2回通い湯治モニター

湯治前が 323 ± 53 CARR U で湯治後が 273 ± 36 CARR U と有意に減少 ($p < 0.01$) した。

(見方：数値は減少した方がよい。300未達が「正常」)

「有意に」という言葉は“偶然に”このような結果になったのではなく、ほぼ“確実に”と考えていただいてもよい統計学の用語です。前回確認した「飲泉モニター」の結果も、活性酸素が「有意に減少」しています。週1回、週2回の両群とも、体内の活性酸素が顕著に減少したのです。特に「週1回」は1名を除き全員が「正常」域に到達しました。

「週1回通いモニター」：18名中17名は「正常値」に改善された!

【表2】

ストレスの度合い	湯治前	湯治後
かなり強度の酸化ストレス	0%	0%
強度の酸化ストレス	5.6%	0%
中程度の酸化ストレス	33.3%	0%
軽度の酸化ストレス	16.7%	5.6%
※ボーダーライン	11.1%	0%
※正常	33.3%	94.4%

湯治モニター開始前は「正常」と「ボーダーライン」を合わせて44.4%であったのに対して、湯治終了時には94.4%と顕著に増加しました。「たかが温泉、されど温泉」です。

「週2回通いモニター」：17名中16名は「正常値」と「ボーダーライン」に!

【表3】

ストレスの度合い	湯治前	湯治後
かなり強度の酸化ストレス	0%	0%
強度の酸化ストレス	5.9%	0%
中程度の酸化ストレス	29.4%	0%
軽度の酸化ストレス	11.8%	5.9%
※ボーダーライン	11.8%	23.5%
※正常	41.2%	70.6%

週2回群の湯治開始前は、「正常」と「ボーダーライン」を合わせて53.0%であったのに対して、湯治終了後には94.1%にまで増加しました。

科学的に裏付けされた、素晴らしい「ペペル」の“温泉力”を確認することが出来ました。